

巖念寺だより

お盆号/令和3(2021)年



題字 大塚婉嬢 書

菅原篤 画

お盆号/令和3(2021)年

●新総代の就任

昨年に急逝された山下忠総代に替わり、この度、^{たかのさとし}高野聡史様(昭和四十九年生…四七歳)総代を引き受けていただくことになりました。神田生まれ育ちの生粋の江戸っ子です。真面目で誠実なお人柄で、副住職と共に次世代の巖念寺をしっかりと支えていってくださることを確信しております。どうか宜しくお願い申し上げます。



●「ケネス・タナカ」の仏教室V」始まる

第五期目の「ケネス・タナカ」の仏教室V」が四月末からインターネット(Zoom)を活用して始まりました。アメリカからの参加者も含めて、全国から百二十名の方々が参加されています。講義録・講義動画を巖念寺ホームページにて公開しております。ご関心のある方は是非ご覧ください。

●ご懇志御礼

次の方々から特別に寄進等をたまわりました。心より御礼申し上げます。(順不同)

大島洋介様/中村信義様/神敏恵様/鈴木孝子様/佐藤富美子様/中山雅人様/佐藤弘一様/成瀬正雄様 その他

●「護持管理費」御礼

巖念寺お檀家の皆様には、本年度も「護持管理費」を納入いただきました。誠に有り難うございました。ここに重ねて厚く御礼申し上げます。今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。なお、ご不明の点などございましたら、お知らせください。

●ご奉仕・ご奉納御礼

三月の春彼岸以降、次の方々よりご奉納をいただきました。心より御礼申し上げます。(順不同)

川上よし子様/田村洋・恵子様/白田忠雄様/浅沼隆様
岡宗一郎様/横山明代様/佐野千代様/武井健祐様 その他

●子ども支援御礼

次の方々から「子どもフードパントリー(困窮する子供を抱えた家庭への支援活動)」へご寄付をたまわり誠に有り難うございました。お陰様でこの活動を始め一年が経ちました。今後も毎月一回のペースで、巖念寺にてフードパントリーを継続してゆく予定です。引き続き皆様からのご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(二月より五月末現在/順不同)

梅岡久美子様/常田幸子様/増野裕子様/富田和子様/井上健治様/勝木尚様/青野輝雄様/加藤桂子様/吉村奈都子様/倉品武文様/阿部眞様/小椋典子様/広部潤様/田平浩文様/千田尚様/小柳幸様/川島秀文様/吉村奈都子様/寺田龍雄様/武石美知子様/村山紀美子様/増原麻衣子様/田中れみ/田平浩文/柳久三恵様/宮沢光子様/中上かおり様/藤原正哉様・友莉子様/大久保早苗様/村山紀美子様/水谷修三様/内木聡様/加藤純子様/秋谷えみ子様/佐野印房様/聖徳寺様/東京東信用金庫三筋支店様/ロージイブル様/東京文化ライオンズクラブ様
その他(匿名多数)



●お盆のご案内

東京はコロナ禍での二度目のお盆を迎えようとしております。

お盆の期間は、東京の場合、**七月十三日(火)～十六日(金)**までの四日間です。そして**月遅れの八月の旧お盆期間は八月十三日～十六日**になっています。巖念寺では七月十日(土)より八月十六日(月)までを「お盆月間」としてご参詣ができるように準備しております。

そして、コロナウィルスの影響で墓参をやむなく控えている人のために、代わって住職が墓前に生花とお線香を供えての「墓前読経」を承っております。ご希望の方はお寺までご依頼ください。

- ① 七月と八月は午前七時開門・午後六時閉門とします。
- ② 飲料やお菓子のお接待はいたしません。以上、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

なお、ひばりが丘墓苑での墓前読経を**七月十一日(日)**にうけたまわります。ご希望の方はお早めにお寺までご連絡ください。
例年は「**新盆法要**」(昨年の七月以降にお亡くなりになった方のためのお参り)を本堂で皆様と一緒にお勤めしておりましたが、コロナウィルスの感染予防を鑑み、中止することにいたしました。

その代わりとして、七月のお盆期間から八月のお盆期間までの約一ヶ月間に、新盆を迎える方のために「墓前」あるいは「ご自宅」での読経をうけたまわります。ご都合の良い日時をお電話でお寺までお知らせ下さい。

(電話〇三(二八四四)九三八三)
「お盆」という一年の折り返しの節目を私たちにとって大切なひと時にいたします。

合掌

巖念寺

〒111-0042 東京都台東区寿1-11-2
<http://www.gonnenji.com>



電話: 03-3844-9383 FAX: 03-3844-9393
E-mail: gonnenji1253@gmail.com

自他不二に「わたし」の支えとは何か

浅沼家の白衣

今春、檀家の浅沼家の皆様が白衣を厳念寺へ寄贈してくださいました。これは浅沼勝郎さん（一九二三～二〇二一）が三歳の頃にお祖母さまと巡ったお遍路の時に着ていたもので、四国八十八力所の御朱印が無数に捺されています。

ご家族の話によると、幼少期の浅沼さんは当時の樺太に住んでおり、お祖母様とお祭りに行った翌日にポリオ（小児まひ）を発症。このことからお祖母様は孫の病氣平癒を願って、四国八十八力所巡りを発願し、幼い浅沼さんを背負って樺太からはるか四国への旅に出られたそうです。九十年以上前は、新幹線も飛行機もなく、道も今ほど整備されてい



この白衣は厳念寺の本堂から二階へ上がる階段に展示させていただいています。お越しの際は是非ご覧ください。

せん。海を越え、山を越えての長い旅路。いつたいどのような思いを抱かれていたのでしょうか。

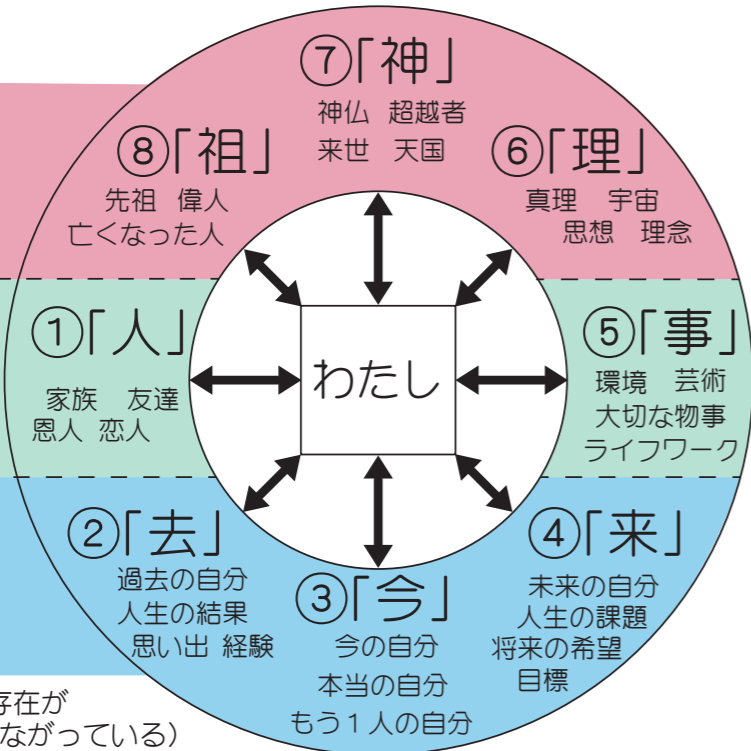
この白衣は浅沼さんの古びたカバンに、ずっと大切に仕舞われていたといえます。当初、この白衣は浅沼さんの棺に納め、荼毘に付す予定でした。しかし、葬儀をいとなむ中で、見送られるお孫さんが「お寺さんに預かってもらってはどうか」と思い立ち、家族会議の末、寄贈を決められたのです。いったい何がお孫さんやご遺族の心を動かしたのでしようか。浅沼さんとの思い出、あるいはお祖母様の願いでしょうか。いずれにしろ、この白衣には私の想像力では計りしれない深い思いが詰まっているように思えてなりません。

さて、昨年、新型コロナウイルスが猛威をふるい始めた頃、「厳念寺だより臨時号」にて「内観」について少し触れました。私たちはつらく苦しいときこそ、今の自分にとって大切なものごと、生きていくための支え、生きる意味を見つめ直す時間が必要なのではないか。そのような内容を書かせていただいたように思います。実際、このコロナ禍を通し、「死」を身近に感じるほど危機的な状況に追い込まれ、自分の人生、生活の在り様、生きる意味を問われるような思いをされた人は少なくないのではないのでしょうか。

とはいえ、自分の人生、生活において何が大切なのかを、何の手がかりもなく考えるのはなかなか難しいかもしれません。そこで今回は私たち一人ひとりの人生、生活において大切なものがででしょうか。ぜひ、一つひとつの領域を丁寧に確認しながら、自分にとっての「支え」を考えてみてください。

誰にとっての「支え」なのか

この図にどのような意味があるのか、冒頭の浅沼さんのお話を通して考えてみたいと思います。



◆究極的にはあらゆる存在が「わたし」と一体（つながっている）

『スピリチュアルケアの構造』 東北大学 谷山洋三 准教授

重要なのは「誰」にとって、「何」が支えになっているかということです。浅沼さんが生涯、大切されていたこの白衣そのものは⑤「事」になるかもしれませんが、その一つの白衣から過去の出来事（②「去」）、お祖母様の存在（①「人」または⑧「祖」）、お遍路さんという文化思想（⑥「理」）、神仏への願い（⑦「神」）等、浅沼さんにとっての「支え」を想像することができません。また、浅沼さん本人だけでなく、この白衣を着せたお祖母様にとっても、並々ならぬ思いが詰まっていたに違いありません。そして白衣を焼かすにお寺へ託したご家族にとってもはどうでしょうか。

これはあくまでこの図を通して解釈に過ぎませんが、浅沼さんにかぎらず、私たちは無意識のうちに多くの「支え」を感じ取りながら生きていくのではないのでしょうか。

「分別知」から「無分別知」へ
ちなみに、谷山先生は僧侶でもありますが、この図には

のごとは何なのかを仏教的に考えてみたいと思います。

縁起―「当たり前」に支えられ、生かされている―

仏教思想の中核には「縁起」という考え方があります。「厳念寺だより」でも度々テーマに上げていますが、この意味を簡単にいえば「私たちはつながりの中で生かされている」（相互依存の関係）ということです。当然のことのように思うかもしれませんが、この言葉には、「本来つながりの中で生かされているが、人はそれを正しく受け止めることができないう。そのことに気づけていますか？」というお釈迦様からのメッセージが含まれています。私たちは普段、様々なものごとを支えられて生きています。しかし、それを「当たり前」のように感じたり、日々の生活に追われる中で、自分にとっての支えをいつの間にか見失ってしまうのではないのでしょうか。順風満帆な日々を過ごせているうちは何の問題もないかもしれませんが、何か大切なものを失ったとき、生きていくことが苦しくなりま。そのような危機に直面した時、私たちはつながりの中で生かされていること、何かによって支えられて生きていることを改めて見詰め直していく必要があるのではないのでしょうか。

あなたにとって「支え」になっているものは何ですか？

とはいえ、いざ自分にとっての支えとは何かを考えようとすると、ピンとこないかもしれません。そこで左の図を一つの手がかりに「自他不二」（自分と他者、他のものごととは究極的にはつながっている）、つまり縁起的な思想が込められているそうです。私たちの日常は、自分や他者、ものごとを言葉や概念で分けて考えます（分別知）。仏教ではもう一歩踏み込み、言葉や概念で区別せずにありのままに受け止める（無分別知）ことができな。私たちの在り方を説きます。私たちは自分の認識できる「支え」によってのみ生かされているとはかぎりません。自分ではまだ気づくことができているだけで、実際には多くの「支え」の中で生きていると仏教では考えるのです。

「袖振り合うも多生の縁」ということわざがあるように、どのようなことが今の自分に影響を与えるかわかりません。裏を返せば、縁起思想には「いかなる状況においても人は何かに支えられて生きている」という事実に目覚めることができますよ」というお釈迦様のメッセージが込められているのかもしれない。

また、厳念寺では昨年度から上智大学のグリーンフケアグループ「ORIZURU」主催で、自分の支えを見つめるカードワークショップ「ココロスケープ」が開催されています。これはさきほどの谷山先生の図をモチーフに、カードや他者との対話を手掛かりに自分の「支え」を見つめ直していきます。一人で自分を見つめ直すことが難しいときも、他者と語り合うことで深めることができます。コロナ禍で息苦しく感じる日々。ご関心のある方はぜひ参加されてみてはいかがでしょうか。（カードワークショップの詳細については厳念寺ホームページをご確認ください。）

〈耀〉